

あ
り
が
と
う
を
届
け
た
い

「第7回 かながわ感動介護大賞」作品集

かながわ感動介護大賞実行委員会

はじめに

介護の仕事をつづけるなかで心に刻まれたエピソード、ふと耳にした一言。今までこの仕事に携わっている多くの方々の胸の奥に、この仕事だからこそ、感じたものがあります。

今年度で第7回を数えるかながわ感動介護大賞。
今年もまた、たくさんのエピソードを寄せていただきました。

皆さんが想像する介護の仕事は、おそらく食事や着替え、排せつの支援など、毎日がその連続ではないか、と思う方が多いのではないかと思います。でも、本当にそれだけでしょうか。

たしかにそれも仕事の一つではあります。
しかし、日々、介護の仕事を通して高齢者の方々をはじめ、家族や地域の方々ともかかわることで、得られるものがたくさんあります。

一緒に笑うことや、泣くこと、そして何かを見たり楽しんだり、毎日のかかわりの中で、その人々の輝きを知ることができるのです。

それは、年齢の違いを越えて、人と人とのふれあい、ぬくもりを通じて、何よりも人としての学びと成長を得られる仕事なのです。

介護の仕事に携わる一人ひとりが、自分らしさを発見でき、人生の気づきを得て、今日も頑張っていることと思います。

この冊子には、様々な場面での介護の仕事の醍醐味が満載されています。この冊子を通して人々のやさしさに触れていることを想像していただければ嬉しく思います。

介護のイメージが変わり、皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着していくことを期待しています。

かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
かながわ高齢者住まい連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

かながわ感動介護大賞 表彰選考会委員名簿（○…座長）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会	理事	……	雨宮	徹
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会	副理事長	……	石田	貢一
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会	会長	……	伊東	一郎
神奈川県立保健福祉大学	准教授	……	○大島	憲子
東海大学	准教授	……	東	奈美
田園調布学園大学	准教授	……	増田	いづみ

目 次

最優秀賞	施設職員の方々へ感謝……………	1
優 秀 賞	片手で編んだ「ひざ掛け」……………	3
	お心遣い有り難う……………	5
	母の願いを叶えましょう!! ……	7
	思い出のマクドナルド……………	9
	親が子供達へ最後の命の教育 ……	11
佳 作	アイ♡ラブ♡脳ちゃん……………	13
	生きる……………	14
	可能性を引き出してくれてありがとう ……	15
	母も私も嬉しいね ……	16
	至福の日々を回想瞑想三昧 ……	17
	言葉の力 ……	18
	お帰りなさい ……	19
	最後の「ありがとう」 ……	20
	ここが俺の居場所だったんだ ……	21
	出会ってくれてありがとう……………	22
	私の1年間 ……	23
	人生最後の入浴を ……	24
	第7回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評 ……	25

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。

最優秀賞

「施設職員の方々へ感謝」 山口 恵美子 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人横浜太陽会 特別養護老人ホーム 白朋苑

私達の両親は幸せな事に同じ特養に母が平成17年、父が平成24年に入所できました。平成4年頃から母の言動に変化があらわれ、父の老老介護の日々が始まりました。「このままだと父も共倒れになる」いつでも相談してくださいとケアマネージャーや職員さんから声をかけてもらい家族が抱える不安を解消してくれ、多くの助言や指導をもらいながら何とか乗り越えられました。母には徘徊があり、平成15年4月行方不明となり翌日神奈川警察で保護されました。父は87歳になり、体力もだいぶ弱り気の休まる事がなかったでしょう。通所サービスを利用しながら特養に入所できる日を待ちました。入所してから、私達は毎日面会にと決めました。職員さんはいつも対応がやさしく、いつも笑顔で対応してくれました。平成28年2月、父は百歳で大好きだった施設で亡くなりました。葬祭場の計らいで、斎場へ向かう前に施設に立ち寄ってくれる事になりました。到着時間を連絡し施設に着くと、その時驚きと嬉しさが込み上げてきました。玄関に職員さん達が、母を連れて来てくれていたのです。父とお別れの時間を作ってくれたのです。皆様の心遣いに感謝の気持ちでいっぱいです。「心の中でおじいさん良かったね」本当にありがとうございました。後に葬儀担当の方から「ここまでしてくれる施設は初めてです」と言っていただきました。ここに入所できて本当に良かったと心から思います。

< 講 評 >

「13年間、ご主人が奥さまを老老介護で支え、共倒れを心配した介護支援専門員・施設職員の方々が、ご家族の不安等に助言や多くの支援を行う中で、ご夫妻が同じ施設で4年間を共に過ごし、ご主人の葬儀で斎場に向かう前に施設に立ち寄り、奥さまに最後の別れの時間をつくってくれた」このエピソードは、ご本人とご家族にとり施設生活を通して紡がれた職員の方々との涙と感謝の介護ならではのエピソードでした。

介護職は、日々の小さな働きかけや言葉のさりげなさが、ご本人やご家族の心に響く職種であること、社会的にはいろいろな考えや評価がありますが、本エピソードのようなかわりは、「介護だからこそできる、心温まるかわり」であるようにも思います。

優秀賞

「片手で編んだ「ひざ掛け」」 近藤 和代 様

感動介護を行った職員

訪問介護事業所 職員 吉澤 ひとみ さん

ヘルパー吉澤さん(ボス)に入浴させていただいていた時、「私の右手が動いたら編物がしたいなあ!」とふと、もらした私…それを、聞き流していた吉澤さんが、次回の入浴が終えた後、12号の棒と毛糸の玉数個と何やらわからない黒いうで巻きテープを持ってきてくれた。「な～に?」とたづねる私。「右手の親指と人さし指をこのテープに入れて、1本の編棒をその中に入れて、左の手で毛糸をあやつれば編物ができるんじゃない?」と彼女は言われ、吉澤さんの障害のある者に対する暖い「まなざし」を感じたのである。

下手な「ひざ掛け」かもしれないが、私にも挑戦する勇気が湧きだした。これこそ、バリアフリーだと思いつつ、下手な作品だが、皆様に観ていただきたく出品させていただこう決心した次第です。

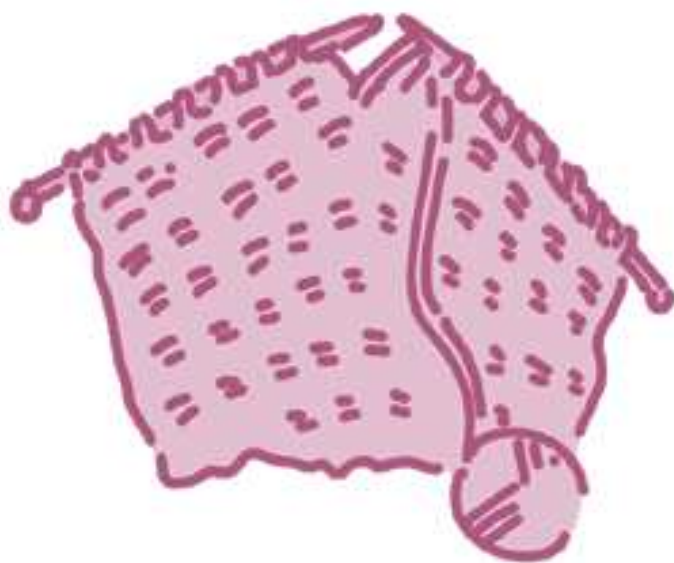
“Thank you very much, Ms.Yoshizawa and Shirata!”

2017.10.18.19

< 講評 >

右手が動かなくなってしまった時には、おそらく、相当なショックを受け、気持ちがふさぎ込んでしまったこともあったでしょう。ヘルパーさんとのかかわりの中で、現在の状態を前向きに捉え、「作品を出品する」という目標に向かって挑戦されている姿に感動しました。そうした前向きな気持ちを引き出すきっかけとなったヘルパーさんの温かい眼差しにも、介護を通した「人と人の温かい関係」を感じました。今回のエピソードだけではなく、日ごろのかかわりの中でも、温かい交流が生まれていることが想像できます。

「介護される」というと、マイナスのイメージがありますが、こんな交流が生まれるのなら「介護っていいなあ」と思えるようなエピソードでした。



優秀賞

「お心遣い有り難う」 酒井 照子 様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイリフレ大庭

私は今サロンデイリフレ大庭に楽しく通っている91才の寡婦です。65年苦楽を共にした主人を昨年6月に送りました。その後どうやって過ごしたのか覚えていない程落ち込みました。太陽が眩しくてカーテンを閉め、ドアの鍵は掛け、周りの方々のお心遣いを有り難く感じ乍(なが)ら臥せておりました。そんな状態の或る日ケアマネさんから、書類にサインと、印鑑を求める電話があり、明日午後1時に来て下さることになりました。正直なところ大変氣重でした。犒(ねぎら)いの言葉を戴きお茶の支度に立ち上がると「酒井さん以前より足が不自由になりましたね。娘さんが心配されていましたよ。元氣を出して、もう一度リハビリに行きましょう。支援2を申請しましたから、一日でもお早く」と言って帰られました。これから一人で暮らしていくには確かに弱っている。萎えた足をどうにかしなくてはならない。その時ふと氣付きました。わざわざ来て下さったのは、介護に携わる部署の方々が連絡し、動いて下さったからではなかろうか。早速有り難い援助を受けようと決めました。年令まちまち男女共学の同級生のもとに戻りました。号令に合わせ手足を伸ばし励まし合い一日一生を取り戻しました。高齢者の私どもに事故があってはならないと所長をはじめ指導員、送迎者のバスの方まで温かい言葉。転ばぬよう細かい動作に注意し見守って下さり、皆さん感謝し一日の小さな達成感に満足し帰りのバスの中は賑やかです。「また元氣で会いましょう。」夕餉の匂うお宅へ一人ずつ降ろしてバスは走ります。

< 講評 >

65年間という多くの時間を過ごされてきた旦那様が亡くなられて、ご本人にとっては、時計の針が止まったかのような茫然とした気持ちだったと思います。「太陽が眩しくてカーテンを閉め、ドアの鍵は掛け、臥せておりました」という言葉から、その気持ちが伝わってきます。ご近所でも「気にかける」というつながりが少なくなってきました。そのような中で、周囲の人の気づきとともに「心配をしていますよ」というメッセージを送ることの大切さを、このエピソードは教えてくれています。介護スタッフの心遣いは、鍵のかかったドアを開け、太陽の光が差し込むようにしてくれたのではないのでしょうか。

また、スタッフの心遣いに応えようと「有り難い援助を受け止めようと決めました」というご自身の決意も新たな時を刻む時計を動かすことになったと思います。



優秀賞

「母の願いを叶えましょう!!」 大畑 良子 様

感動介護を行った職員 社会福祉法人親善福祉協会

特別養護老人ホーム恒春の丘 1GHユニットの職員さん達

「あさって、私もお墓参りに行きたいの・・・」

7月のお盆の入りの朝、小さな声だがはっきりとした口調で母は言った。奇しくもショートステイ入所の日だった。

2年前、脳出血を患って左半身に強い麻痺が残り、車イスが自分の足となった母。20分も車イスに座っていると体が締め付けられると訴える毎日なのに浅草までお参りに!?

予定通り3泊4日のステイに入所。まずはいつも良きアドバイスをくださるユニットリーダーの円谷さんに相談した。母の気持ちと体の状況を考慮しての助言をいただき、私は母の強い思いを優先させて浅草まで外出する決心をした。そしてティルト車イスの貸し出しを希望し、勤務時間の過ぎた円谷さんと共に、我が家の福祉車両に乗せられるかを試した。大丈夫だ!!

翌日は杉森さんが母をティルト車イスに座らせ、扱い方の説明を私にしてくださった。ところがしばらくすると、母は自分のコンパクトな車イスで行きたいと言うのだった。お寺の狭い通路が気になるようだ。それならばと、夜勤の太田さんが段ボールとバスタオルで、頭部まで支えられる背もたれを手作りしてくださった。

お墓参り当日の朝、少々緊張した面持ちの母を迎えに行き、浅草へ出発。そして一か八かの4時間の外出を無事に全うすることができた。母は何度も「皆さんありがとう。」と繰り返した。

どこまでも母の気持ちに寄り添い、願いを叶えるべく動いてくださる職員さん達。暖かいお心とチームワークにいつも心より感謝している。毎週末お世話になっているこちらのホームは、母の安らぎのセカンドハウスである。

< 講評 >

脳出血を患ってお身体に支障があり、自分のしたいこともできなく、身の回りの行動にも不自由な、何とも悔しい思いの生活に一変してしまいましたと思います。

ご本人の「お墓参りに行きたい。」という強い願いを汲み取り、その願いを叶えてあげたいと思う家族の気持ちを理解し、これまでの介護の経験や日常の介護業務から得られた創意工夫を出しあったそれぞれの職員の思いは、普段の業務でもご利用者の思いに寄り添う介護の実践があるからこそできる行動だと思われま

す。夢が叶ったご本人にとっても、ご家族にとっても、職員の知識と技術とチームワーク、そして介護の可能性を信じる熱い想いに、大きな感動を得たことと思います。



優秀賞

「思い出のマクドナルド」

社会福祉法人公正会

特別養護老人ホーム希望苑 野上 佳澄 様

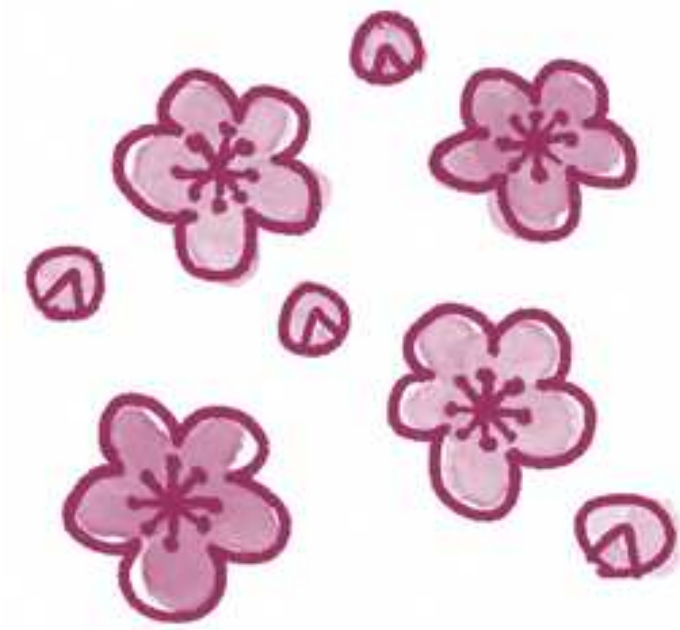
入所して間もなかった I さんは認知症があり、意志疎通は難しい方。入浴の際は声かけを工夫しながら誘いますが強く拒むことが多くありました。食事も残す事が多く全量召し上がることもあまりありませんでした。入所前の I さんは毎日のように一人でマクドナルドに行き、日課のように何度もバーガーを買いに行っていたとの情報を聞いていました。そこで、利用者様数名で施設でマクドナルドを食べるという企画を考えました。当日は利用者様を食堂へ案内しそれぞれ前もって決めていたメニューを配りました。最初は不思議そうな表情でしたが、一口食べると笑顔になりポテトとバーガーを一緒に口の中に持っていきました。そして、むせてしまう程のスピードで召し上がり完食しました。それだけでも感動しましたが、I さんは涙を流し、食べ終わったバーガーの袋を大事そうに丁寧に畳んでいました。入所前、バーガーを買っていた時、袋を毎回丁寧に畳んでいたとの話を後から聞き、私は驚きました。

以前、マクドナルドに通っていたことが I さんの生活の一部になっていてそれを久々に食べた時、何か感じるものがあったのだと思います。認知症の進行もあるかもしれませんが I さんは入浴の拒否をしなくなり、食事もほぼ毎回完食するようになりました。以前より表情も穏やかになり、「ここが自分の居場所」と思ってもらえた様な気がします。I さんの嬉しそうな表情、違った一面を見れてやりがいを感じました。

< 講評 >

馴染み深い人や物にかこまれて生活し、食べたいものを食べることで。様々な喜怒哀楽はあっても、これに勝る幸せは果たしてあるでしょうか。そして施設入所とは、それらの多くを失う機会ともなってしまふ。ヘルシーメニューと清潔な部屋、優しいスタッフがいても、家に戻れない寂しさを埋めることはできない……。この喪失感に対応することは施設スタッフの大きな課題です。

Iさんとハンバーガー。この組み合わせが実現できたのは、介護職魂と若い発想が功を奏した結果でしょう。Iさんの過去の生活に焦点をあて、五感を呼び覚ます介入につなげたことはお見事としか言いようがありません。個々人を大切にする介護の神髄を感じることができたエピソードです。



優秀賞

「親が子供達へ最後の命の教育」

社会福祉法人愛川舜寿会

介護老人福祉施設ミノワホーム 八木 早百合 様

私の施設では看取りを年間15名程最期を施設で迎える。私が相談員をしていた頃1組のご家族がとても印象に残っている。Aさんは入所され3年が過ぎた頃食事が摂れなく病院に入院された。3週間後食事は少量しか摂取できなかつたが胃ろうを希望しなかつた為、施設での看取り目的で退院した。退院後もなかなか経口摂取が進まず、いよいよ看取り体制になり、主介護者の長男夫婦は看取りに同意したが娘達は、変りはてた母親の姿と何もしてあげられない不甲斐ない気持ちなのか、病院で看取りをしたいと言いはじめる。施設の囑託医、看護師からも「早く決断してもらわないと時間がない」と言われる。しかし家族からしてみれば私達の焦りなど関係ない。60年以上の間そだててもらった母親を2、3日中に決断できるわけがないのだ。といっても時間がない。私は家族全員に来所して頂き、ご家族に対して施設独自の看取りパンフレットを渡し一緒に命の勉強をした。食べないから死を迎えるのではなく、体が食べれない体になってきた事苦しめない事個室で家族が見守る事ができる事。自分の経験最大限の話しをさせてもらった。ようやく全員施設で看取りに同意した。すぐに個室に移動し毎日毎日母親に付き添い手をさすったり、優しく声をかけ笑いもあった。同意してから3日後子供孫ひ孫に見守られながら眠るように旅立った。1粒の涙を最期に流して・・・子供達へ最後の命の授業だったのだと今でも思う。

< 講評 >

看取りをどこで行うかは、ご本人や家族の意向に沿いますが、その時々のご本人の状態などもあり、迷いがあるって当然と言える場面です。

このエピソードでは、施設の相談員が家族と一緒に看取りについての「命の勉強」をして寄り添うことにより、家族が施設での看取りを決めて、母親の最後のひと時を子供・孫・ひ孫と多くの家族が見守ることができ、穏やかに見送ることができました。

施設が信頼されるような「命の勉強」を行い、またそれを実証するような施設の看取りへの体制や家族との連携があったからこそ、家族が看取りの場所を施設に選んだ後押しになったと思います。



佳作

「アイ♡ラブ♡脳ちゃん」 小川 裕美 様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイ東海大駅前

私は、くも膜下出血になり、24時間手術をし、長期入院後にリハビリ中です。沢山の医療の方々にお世話になっています。道分けを作ってくれた方々に、感謝しております。今は、サロンデーに週に1回運動のリハビリを行いながら練習しています。最初は手が上がらなくて、洗濯物も干せず毎日、少しずつ練習し、1ヶ月かかって、普通に干せた時涙が止まりませんでした。嬉しくて。次はリュックを背負えるように1ヶ月練習して今は使えるように、なりました。少し目が見えにくいので、助かっています。神奈川県に住んでいて良かったです。リハビリの先生を始め介護してくれる方々や整体師さん達、プロの方々に教えて頂き、1つ1つを少しずつ進歩させて頂いています。そして介護は大変な、お仕事です。私達に、涙の雨が降っても、雨は、いつか止むと言う、瞳の、お天気を感じさせて頂いています。そして神奈川県知事様を始め各々の分野の方々に本当に、ありがとうございます。病葉の私達にも、対処法を考えて頂き、心からのありがとうございます。本当は、知事様の名前を書くべきなのですが、今の私は高次脳機能障害、失語症の為、すべての花も鳥も名前が分からないのです。申し訳ありません。

All of you were very kind and helpful to me.

I really appreciate it.

佳作

「生きる」 谷澤 貞子 様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイリフレ大庭

7年前、脳出血で倒れ
麻痺の残る身となり
リハビリと云う列車に乗った
そして今、希望と云う列車に乗りかえた

笑顔で手を振ってくれる人がいる
「妹」といってくれる人がいる
温かな視線 やわらかな眼差し

そして皆勤賞と云う駅についた
仲間も皆んな頑張っている
さあ私も顔を上げて明日をみよう

列車は走り続けている



佳作

「可能性を引き出してくれてありがとう」 三澤 キミ子 様

感動介護を行った事業所

株式会社グッディ デイサービスセンターグッディ

私が通っているデイで元寿司職人の人が寿司の話をしてくれます。一度寿司を作って欲しいと仲間の中で話しがもちあがり、デイの中で話し合い巻物なら良いだろうと云う事になりました。その日の本人は朝からそわそわ、うろうろ落ち着かない様子、でも、いざその場になると「この人どこが悪いの」と思うぐらいに生き生きと格好よく作って見せてくれました。皆が見ていても緊張すること無く生き生きと巻いている姿を見てさすが職人。身に着いた技はどんな時でも身体が覚えているんだなあと感心しました。感動と云うか自分の事のように何とも云えない嬉しい気持ちになりました。私は太巻きを、上手く出来ないので諦めていましたが、「良し」と目の前で見せてもらいコツをつかみました。家に帰って早速主人が炊いて置いてくれたご飯と海苔と家にある物を入れて酢の入っていない太巻きを作ってみました。3本目でやっと出来ました。

夕飯に切って出すと、主人が一言。「酢の入っていない太巻きもいいもんだ」その言葉を聞いて2人で笑いながらデイであった事を話し食べました。今は酢飯で太巻きを巻いて食べています。幾つになっても頑張っって練習すれば出来る様になる事を知りました。又幾つになってもみんな得意分野があることが、なんだか嬉しい気持ちになりました。それは私達の得意や、意欲を引き出してくれるグッディさんのおかげです。グッディさんに感謝です。スタッフ一同にもありがとう。

佳作

「母も私も嬉しいね」 荒井 久美子 様

感動介護を行った職員

社会福祉法人慈正会 特別養護老人ホーム虹の里 本間さん

母は、元気だった70代に突然の脳出血で入院。右半身麻痺、認知症進行の状態、退院後、そのまま虹の里に入所しました。約5年間、母は、本来の明るさ、社交性は元気な頃のまま、いつも笑顔で入居者さん達とお喋りしていました。昨秋頃より、急速に症状が悪化し、会話も意思表示も殆ど出来なくなりました。何より、入居者さんとお喋りが出来なくなり、表情のない顔で1人ポツンと車椅子にもたれている姿がとても不安そうで、切なくなりました。又、母が何かを訴えようとしているのに耳を傾けない、動作が出来ない事にきつい言葉をかける職員さんに対し、多忙と大変さを理解しながらも憤りと悲しさを感じました。そんなある日、トイレの中から、母を丁寧に関助しながら、優しく声掛けを続ける職員さんの声が聞こえました。周囲の目もないトイレ内で、意思が通じない母にこんなにも優しく寄り添ってくれる職員さんがいるとは。初めて会ったその職員さんは、その後も、常に自然な挨拶と、時に触れて母の様子や小さな身体の変化について話しかけてくれます。それは、どの入居者さん、ご家族に対しても同じです。本間さん、言葉が出ない母もきっと「本間さん、いつもありがとう。あなたはよく働くわね」と母らしい口調で感謝していますよ。その寄り添う姿に、心から感謝しながら、再び私も自分の気持ちを上げて、母に会いに通います。

佳作

「至福の日々を回想瞑想三昧」 北村 明延 様

感動介護を行った職員 社会福祉法人たつき会

介護老人福祉施設スマイル桜ヶ丘 西澤 弓 さん

平成27年暮帰宅したら妻福江87歳が不在、然も夜に至っても音沙汰なし。すぐ子供夫妻を呼び、警察に捜索願いを提出。2度目の警察官2名来宅、帰られたと思えば、すぐ引き返す。その背後に憔悴し切った福江が呆然と佇む。あわてて玄関へ入れた瞬間卒倒。これが認知症発症のサインと判明。以来ベットと車椅子の生活。終日トイレ、トイレの連発、僅か三十数キロの体重だが、移動に一苦勞。かくして私は完治不能の腰痛を患い、デイサービスに通う身。万策尽き特養スマイル桜ヶ丘に入居させた瞬間「自分達が樂をしようとして、私をこんな所に入れて」と激怒。以来昼、夕食の2回面会に訪れれば、満面の笑み「ここがお前の家だよ」と諭せばやがて「ここは静かで良い所だね」と豹変。反面自宅に連れ帰っても無反応となり、哀れを催す。面会中は正に我が人生最高の至福の時だった。会話は弾み、蘊蓄に富んだ語彙が統統、四文字熟語、諺、当意即妙の返事、その一例だが「余り食べると腹がふくらむ」と諭せば、「大丈夫平気、ちゃんと下から出るもの」と切り返す。スマイルのスタッフ方に対し、いつも良い笑顔で「ありがとうございます。すいません」の連発とあって皆さんから褒めそやされ、ついうれしくなる。10カ月入所中良いことづくめ。28年10月14日朝方訃報に接し思わず天を仰ぐ。顧みれば藤沢市婦人会書記を三十余年勤め、多くの有識者と接した事から博識だったのかな？生前自から献体手続きを済ませており、軀は現在その精霊に対し合唱三昧の日々。

佳作

「言葉の力」 高橋 三枝子 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人竹生会 ちくぶ坂下ホーム 坂口さん

平成30年7月11日。母は93才で旅立ちました。看取りに入ってから2週間目のことでした。

10年前の5月に、ちくぶ坂下ホームに入所した母は、シルバーカーを押して歩き、よく話し、食べるのが大好きでした。

母とホームの関係は、介護スタッフ、看護師、主治医、施設責任者のみなさんに支えられ良好に10年間も続きました。

介護といえば、介護される本人が一番つらいことが多いのですが、その家族にとってもつらいことがありました。

病気になり入院したり、きのうまでできていたことができなくなってしまうたり。

母は入所中5回の入退院をし、シルバーカーから車椅子になり、最後の数年は食事介助も必要でした。

そんな中で、ホームのスタッフは母を支えつつ、家族である私の気持ちに寄り添う言葉をかけてくれました。

ホームでの行事敬老会の式典に毎年家族として参加してきました。が、ある年、私が息子一家との旅行に誘われ、式典を欠席することを申し訳なく伝えると、「どうぞ、自分自身の時間も大切に過ごして下さい。お母様のことはスタッフにまかせて下さい」と、包み込むような、あたたかい言葉をかけてくれました。

この言葉に私自身どれだけ救われたことでしょうか。介護スタッフの言葉は家族の心をも介護してくれるものだと感じました。

坂下ホームでお世話になった10年は、母の人生の終わりを支えていただき、娘である私にとって母との良い思い出を作ることのできた時間でした。

佳作

「お帰りなさい」 牧野 聡美 様

感動介護を行った事業所 社会福祉法人清琉会

小町山グリーンホーム ホーム職員さん

着物姿の似合う母が、20年程前腰椎の圧迫骨折をし、父が家事・介護を一人でこなしていました。

東日本大震災以後、県外に住んでいた母は私の住む神奈川に来てもらいましたが、骨折等を繰り返し、8か所ほど病院や施設にお世話になっています。その都度父も近所に住み、母に毎日面会する日々でした。その後、父も脳内出血で倒れ、リハビリを経てサービス付き高齢者向け住宅「小町山グリーンホーム」へ入居しました。しかし、間もなく肺炎を繰り返し、入退院の日々、本人も家族も不安でいっぱいでしたが、退院し、小町山グリーンホームの玄関に入ると、「お帰りなさい。お待ちしてましたよ。」の声に救われ、励まされる思いでした。また、父の体調に良いことの提案やリハビリを励ましてもらい、とても心強く感じました。

最近の父の楽しみは母への面会で、「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」の声に支えられ、いつまでも父と一緒に母への面会が続けられたらと思う毎日です。

家族の一員のようにさりげなくかけてくださる「お帰りなさい」の一言、小町山グリーンホームの職員さんに感謝いっぱいです。

「最後の「ありがとう」」

特別養護老人ホーム 職員 工藤 竜也 様

「なんでこんな大変な仕事をしているの？まだ若いのに…」施設に長く入所されているAさんの質問に対し、当時まだ経験が浅かった私は、「『ありがとう』って言う言葉を言ってもらいたくて、介護の仕事に就きました」と、正直に答えました。その時、Aさんはため息をつきながら、「あんな、欲しがったらあかん。自分から伝えてくもんや」と、教えてくれました。

次の日の朝から挨拶とともに、「休んでいる時に答えてくれてありがとう」や、「待っていてくれてありがとう」など、出来るだけたくさんの人に、出来るだけたくさんのお礼を伝えました。目が見えにくい人や、耳が聞こえにくい人には、両手をとり、「ありがとう」と言いながら文字の数だけ5回、ギュッ、ギュッと握りました。

時が過ぎ、色々教えてくれたAさんも歳を重ねるごとに、だんだん起き上がるのが難しくなってきました。それでも部屋を訪れて、手を握りながら挨拶すると、恥ずかしそうに笑いながら、「ありがとう」と言い、握り返してくれました。

Aさんが急変した日の夜、私は出来るだけたくさん「ありがとう」と手を握りながら伝えました。最後に…かすかにAさんの手が動き、息を引き取りました。それが「ありがとう」なのかはわかりませんが、あの感触を忘れずに私は今日も「ありがとう」を伝えられます。

ありがとうございました。

佳作

「ここが俺の居場所だったんだ」

ミモザ株式会社

ミモザ横浜いずみ 小泉 康 様

今年の5月に入居されたS様。入所した頃は、「俺はもうだめだ」と生活する意欲を失っていました。食事が終わると直ぐに部屋に帰ってしまう、そんな生活を送っておられました。

そこで、S様に自分から話かけることを始めました。始めたばかりのころは、あまり会話も続かないこともありましたが、だんだんS様が昔の話をするようになり、中華屋さんを営んでいた事や、家事が好きだと知りました。今度は、S様にも何か手伝ってもらえることはないか、探ることにしました。盛り付けを手伝ってもらえないか、声をかけてみると、「じゃあ、やってみようかな」と返事がかえってきました。照れくさそうでしたが、少し笑顔が見えた瞬間でした。その後も、テーブルを拭いたり、食器を洗ってもらえないか等々、お手伝いの種類を増やしていきました。

すると、ある日から、お部屋で過ごしていたS様が食事前になると、「何か手伝おうか?」と声をかけてくれたのです。それを聞いて思わず、びっくりしてしまいました。

そんなある日に、S様が職員に近寄り、「俺も少しは皆の役に立ててるかな?俺でも、役目があると思うと、おれはここにいていいんだって、実感できるんだよ。だから、ここが俺の居場所だったんだって感じるんだよ。」そんなS様の言葉に、嬉しくて自然と涙がこぼれてしまいました。思いがけない時に感動がこの仕事には溢れているんだとしみじみ思いました。

佳作

「出会ってくれてありがとう」

プラウドライフ株式会社

季の家高座渋谷 高橋 真弓 様

介護の仕事をしていると色々な方に出会います。その中でも忘れられない方がいます。

周囲からは「頑固なおじいさん」と言われる様な方で、サービスもなかなか受け入れて頂けず、意に沿わない事があると大声を出して人を遠ざける事もしょっちゅうでした。私達は心を開いて頂ける様に毎日ご自宅に伺い顔を見せ、だんだん笑いあえるようになってきました。

少しずつ信用してもらえればと思っていた矢先、職員が足を杖で叩かれ怪我をしたと報告を受けました。何か理由があったにせよショックでした。気持ちなんて通じ合っただけ無かったんだと思いました。

そんな中、本人から「助けて」とホームに電話がありました。すぐ職員が自宅に向かい救急搬送しましたが病院で亡くなってしまいました。分かり合えず何も出来ないまま終わってしまったと思いました。

病院でご家族にお会いし、「最期に助けを求めたのが私ではなくそちらだったんですね。」と寂しそうにおっしゃいました。その時気付きました。この方が私達を信頼してくれていた事に。この方の何を見ていたんだろうと後悔しました。ご家族は更に「ここにして良かった。」と言ってくださいました。その一言に救われました。

この方と過ごした時間やご家族から頂いた言葉は忘れる事は無いと思います。

あなたに出会えて良かった。出会ってくれてありがとう。

佳作

「私の1年間」

株式会社スマイル

スマイル住まいる三浦 常世田 崇 様

私は現在40歳なのですが39歳の時、長年勤めた食品会社から全く経験のない介護の世界に転職してきました。当然分からないことだらけ、認知症のお客様にもうまく対応できず、お客様を怒らせ、怒鳴られ、勤務中に涙を流したこともありました。しかし介護未経験の私にとっては毎日が感動の連続でもありました。今まで「お兄さん」と呼ばれていた方から、ある日突然「常世田さん」と名字で呼ばれるようになったり、「もうすぐ働いて1年になるわね」と自分でも忘れていたようなことを覚えて下さっていたり、「あなたは本当に良くいろいろな人の世話をしているわね」と自分の仕事を見てくださったり、車イスで階段を降りる時、「上手ね」と誉めて下さったり、と本当に毎日が小さな感動の積み重ねで、あっという間に1年が過ぎようとしています。そんな中でも最近一番嬉しかった感動の話をご紹介します。ある朝そのお客様のご自宅にお迎えに行くと、ご家族様から「あなたが常世田さんですか？」と聞かれました。なぜまだ数回送迎に来ただけの私の名前をご家族の方が？と思ったのですが後から考えるとご利用のお客様が私の名前を覚えていて、今日は多分常世田さんが来るよ、と話をしていたのかな、と思ったら、とても嬉しくなってしばらく顔がニヤニヤしてしまいました。はっきり言って仕事は大変で辛いことも多いですが、こうしたお客様との繋がりが私を支え、明日への活力となっています。これからは私がお客様に感動をお返しできるよう努力し続けていきます。

佳作

「人生最後の入浴を」

社会福祉法人創生会

特別養護老人ホームあだちホーム入浴サービス

山本 伸明 様

Kさんは57歳。アパートで一人暮らし。腎不全の為、週3回人工透析を受けていました。Kさんは目つきが鋭く強面。言葉が出にくい為、スタッフに対してうまく伝わらないと声を荒げることもありました。

そんなKさんですが、ありがたいことに、我々の訪問入浴をととても楽しみにしてくれました。入浴中、「最高です。風呂が一番の楽しみです。」などと言ってくれました。強面のKさんが優しい表情になり、喜んでくれることに、我々スタッフはとてもやりがいを感じ、嬉しい気持ちになりました。

しかしKさんはある日、病状が悪化し入院してしまいました。食事が摂れなくなり、人工透析もできない状態となってしまう、医師によると「余命一週間」との事でした。Kさんは「家に帰って風呂に入りてえ」と強く訴えたそうです。Kさんの強い願いを尊重すべく、ケアマネが動きました。医師から退院の許可も得ました。各事業所と連携を図り「人生最後の入浴」に備えました。10時帰宅時はケアマネが迎え、11時に訪問入浴、同時間に訪問看護も同席、午後にはヘルパー、夕方には医師が訪問するという万全なスケジュールで退院を待ちました。

しかしKさんは退院前夜に亡くなられてしまいました。Kさんの「風呂に入りてえ」という願い、各事業所の「思い」は叶いませんでした。Kさんの為に各事業所が同じ目標に向かっていった「思い」は在宅サービスにおいての原点であり、とても大切な事だと感じました。

第7回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評

今回のかながわ感動介護大賞へのご応募数は、98作品ありました。ご本人から23作品、ご家族から29作品、そして、介護職員の方々から46作品があり、どのエピソードも、それぞれのお立場から、生の声として心に沁みる内容でした。

ご本人からの作品では、夫と死別後から立ち直る過程、訪問介護職の方の観察力の中で生まれた具体策、重い障がいの中で自分への葛藤と新たな生き方へのチャレンジ等々。

ご家族からの作品では、介護職員の「包み込むような温かい言葉」の力や配慮、自然な挨拶や心からの笑顔での対応、一言の嬉しさと重み等々。

ご本人やご家族の応募作品全体が、介護職に対し「さりげない言葉の温かさ」、「自分をみているという嬉しさ」、「ここに居てもいいんだという安心感」、「生きることへのエール」など、介護の中でだからこそ感じることのできる内容で綴られておりました。

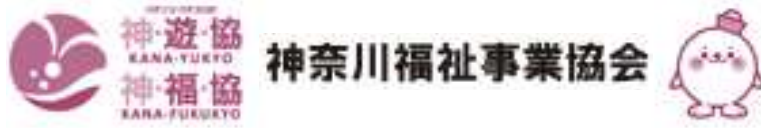
介護職員の方々からの作品では、自ら気づかない気負いや自負を、利用者の方々との会話の中で、気づき、反省し、次につなげようとする謙虚さや、いろいろな状況の中でのケアと職種間におけるジレンマ、利用者の方やご家族から介護という仕事を通して教えられた誇りや夢をもてることへの感謝等が綴られておりました。

今回の応募作品は、その一作品一作品が語る言葉の重みを「ひとしずく、ひとしずく」溜めつつ、今後の介護に対する温かなまなざしと流れに変えていくことを予感させるような作品ばかりでした。ご応募いただきありがとうございました。

来年度も多くの方々のご応募をお待ちしております。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長 大島 憲子

■ かながわ感動介護大賞協賛法人



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

川崎市老人福祉施設事業協会

社会福祉法人八寿会

社会福祉法人横浜長寿会

特別養護老人ホーム上郷苑

社会福祉法人育生会

社会福祉法人鎌倉静養館

社会福祉法人共生会

藤沢養護老人ホーム

藤沢特別養護老人ホーム

社会福祉法人清琉会

社会福祉法人東洋会

社会福祉法人母子育成会


社会福祉法人大和清風会

特別養護老人ホームサンホーム鶴間

合同会社Run 訪問介護Run

株式会社サロンデイ

トヨタカローラ横浜株式会社


 公益社団法人
かながわ福祉サービス振興会



 社会福祉法人
松みどりホーム



人と向き合い 人に寄り添う
日総ニフティ株式会社 **NISSO**

 社会福祉法人
神奈川県社会福祉事業団



社会福祉法人日本医療伝道会
衣笠病院グループ

 社会福祉法人
神奈川県匡済会  神奈川県済生会



一般財団法人
シニアライフ振興財団



ポンジュース
株式会社えひめ飲料東京工場



城南信用金庫

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

社会福祉法人たちばな福祉会

老人デイサービスセンター芙蓉の園

社会福祉法人富士美

パラマウントベッド株式会社

社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会

社会福祉法人光温会

社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野

社会福祉法人三崎二葉会 ケアセンター南下浦羊の家

医療法人社団相和会 淵野辺総合病院

公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会

社会福祉法人厚木慈光会

ムツアイホームやすらぎ 厚木市睦合地域包括支援センター

ムツアイホームうるわし 厚木市睦合南地域包括支援センター

ムツアイホームすこやか

社会福祉法人一石会

特別養護老人ホーム白鷺苑 一樹荘デイサービスセンター

こぶし荘デイサービスセンター ケアプランセンターえんじゅ

社会福祉法人永寿会 特別養護老人ホームかりん

社会福祉法人幸済会

社会福祉法人鈴保福祉会 特別養護老人ホーム柿生アルナ園

社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設みやうち

社会福祉法人竹生会 芭蕉苑 介護老人福祉施設

社会福祉法人東京武尊会 ボーナビール二本松ケアセンター

社会福祉法人藤心会 特別養護老人ホームふじの郷

社会福祉法人藤嶺会 特別養護老人ホーム弥生苑

社会福祉法人ハマノ愛生会

社会福祉法人百鷗

社会福祉法人湯河原福祉会 シーサイド湯河原

株式会社アオバメディカル あおば福祉サービス

株式会社いわしや西方医科器械

株式会社エルエーピー

株式会社ケアバンク

株式会社セレモニア 有料老人ホームクレッセ川崎

有限会社みどりケアサービス（鎌倉市）

特定非営利活動法人愛コープ



※協賛団体一覧及びロゴは、各協賛団体の希望する方法で掲載しています。

— ご協賛いただきありがとうございます —

随時受付中!

かながわ感動介護大賞

感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか!

職員の方や感動的な場面を直接見聞きした方の
「感動」介護のエピソードも募集しています。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、県ホームページ

「かながわ感動介護大賞エピソード募集」をご覧ください。

※インターネットからも応募できます。





神奈川県

かながわ感動介護大賞実行委員会

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

〒231-8588横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-4835(直通)

ともに生きる

共生社会の実現に向けて取り組んでいます。

ともに生きる社会かながわ憲章

検索



受賞作品の
ドキュメンタリー動画を
Webで公開しています



神奈川県「認知症の人と
家族を支えるマーク」

